

小田井遺跡

小田井遺跡は名古屋市西区貴生町地内に所在する。昭和60年度の試掘の結果に従い、7箇所の調査区を設定した。検出できた遺構の時期は、古墳時代前期と近世である。中世の遺物は、若干みられたが、遺構に伴わず、包含層中より出土したものである。

古墳時代前期の遺構はD区より西側の区で検出しえた。ことにA区では、土坑等の遺構が集中して見られ、周囲に同時代の集落の存在をうかがえる。これらの遺構群は、南北へのびる自然堤上に位置し、その基盤は東へ向い低くなる。よって、同時代の遺構は、A区よりさらに西へ広がり、D区をもって東限となる。

近世の遺構は、B区で北東より南西へ走る大溝を検出。一部は、現代の用水とも重なる。D・E区では、セクションで水田址を確認できた。遺物を伴わず、時期は不明であるが、遺構面より近世以降と考える。F・G区は、立会い調査により近世以降の耕作地としての可能性が高いことが認められた。

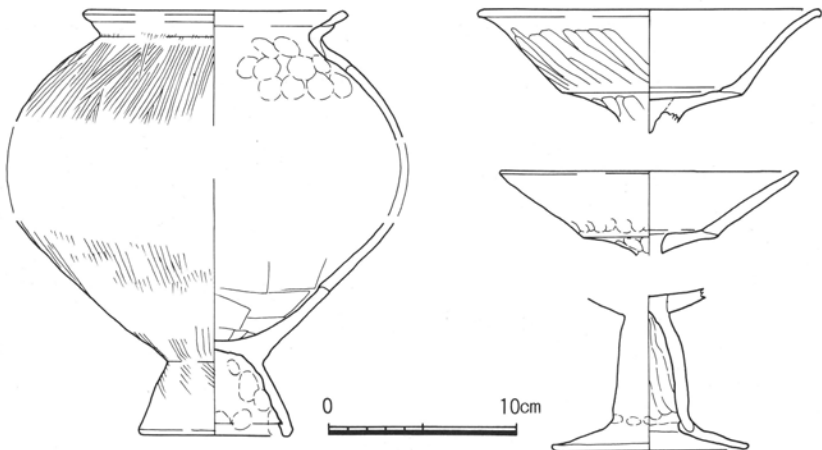
(佐藤公保)



小田井遺跡 調査区位置図(S=1/5000)



62A区 SK10遺物出土状態



62A区 SK10出土土器